

平成25年度資源評価票(ダイジェスト版)

[Top](#) > [資源評価](#) > [平成25年度資源評価](#) > [ダイジェスト版](#)

標準和名 ムシガレイ

学名 *Eopsetta grigorjewi*

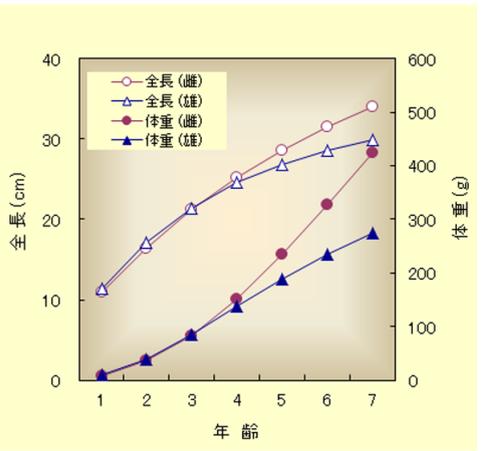
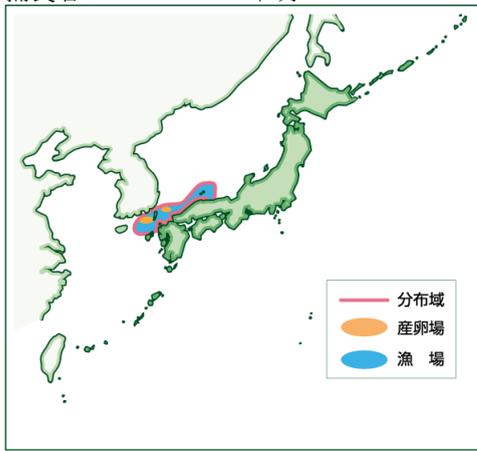
系群名 日本海系群

担当水研 日本海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 7歳程度
成熟開始年齢: 2歳(40%)、3歳(100%)
産卵期・産卵場: 冬～春季(1～3月)、対馬周辺海域
索餌期・索餌場: 夏～秋季、日本海西部
食性: 全長約12cmまでは小型甲殻類、12cm以上ではエビ・カニ類やイカ類、全長約18cmから魚類
捕食者: 不明

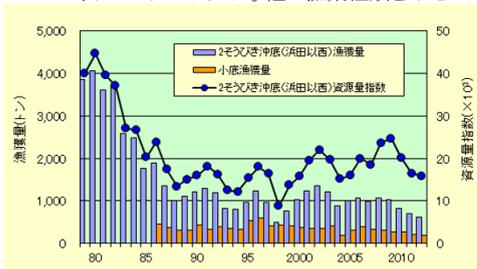


漁業の特徴

日本海南西部では、浜田港と下関港を基地とする(浜田以西)2そうびき沖合底びき網(沖底)と小型底びき網(小底)がムシガレイの漁獲量の殆どを占める。沖底の漁場は、対馬南西域から隠岐周辺に及ぶ。

漁獲の動向

2そうびき沖底(浜田以西)の漁獲量は、1980年には約4,000トンあったが1980年代前半に減少して低水準で推移し、2012年は630トンであった。他の漁業種類を加えた2012年の漁獲量は940トンと過去最低を記録した。

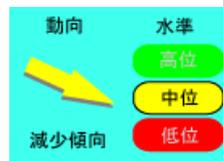


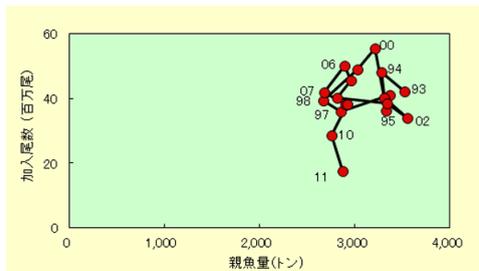
資源評価法

1993年以降についてはコホート解析により評価を行った。これに加え1966年以降の沖底の漁獲成績報告書から資源密度指数、資源量指数等を算出した。

資源状態

資源量は長期的には安定しているが、2001年に緩やかなピークがあり、その後は横ばいから減少傾向にある。漁獲割合は1996、2003、2006年にピークがみられ、2009年以降は低下している。1歳魚を加入量とした再生産成功率は2007年から低下傾向が認められる。



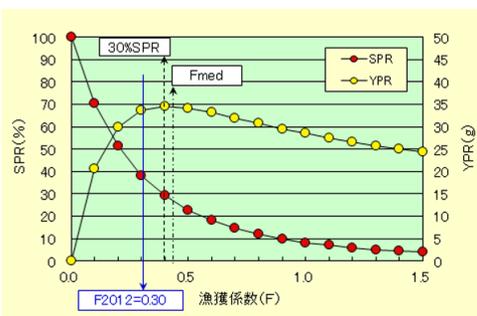


管理方策

再生産成功率が低下し、資源量は減少傾向にあるが、2012年の親魚量は資源回復の閾値(Blimit)を上回っており、近年の漁獲率は比較的低い水準にある。今後の再生産関係がコホート解析を行った1993年以降の中央値で推移した場合、現在の漁獲率であれば徐々に資源量と漁獲量が増加すると考えられることから、ABC算定規則1-1)-(1)により、ABClimitはF2012を用い、また、不確実性を考慮したABCtargetは0.8F2012を用いて算定した。

	2014年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	10百トン	F2012	0.30	23%
ABCtarget	9百トン	0.8F2012	0.24	19%

- 漁獲割合はABC/資源量
- F値は各年齢の単純平均



資源評価のまとめ

- 資源量は減少傾向にあるが、漁獲率も低い
- 資源水準は中位、動向は減少

管理方策のまとめ

- 現在の漁獲率および近年の再生産成功率の下であれば、資源量・漁獲量ともに増加が期待できる
- 1、2歳魚の漁獲割合が60～80%と高いため、若齢魚の保護等について検討する必要がある

執筆者: 木下貴裕・藤原邦浩

資源評価は毎年更新されます。